

多賀工業会千葉県支部会報

第8号



成田山新勝寺

みんなで総会の特別企画を考えよう 編集後記参照

何ごともゆったりと

支部長 山田 泰雄 (19歳)

世の中は、高齢者社会にちかづきつつあります。

2010年頃には4人に1人が65歳以上になるとのことです。長寿はめでたく結構なことですが“寝たきり”や“痴呆”であっては御本人やご家族の方も大変です。デンマークでは、寝たきり老人は殆どいないといわれます。最近目にした記事に面白いのがありましたので御紹介します。

徳川幕府の黒幕政治家といわれた天海僧正(?-1643)は百歳を過ぎても巽謙としていた。登城日には必ず出仕し路間に与っていた。ある日、将軍家光から柿の実をたべるようすすめられた。天海はありがたく頂戴し、種を懐にいれた。いぶかった家光が何にするのかと問うたところ、天海は「持ち帰って植えます」と答えた。あざれた家光は「高齢のご坊には無益なこと」と呟いた。年が経って、天海は沢山の柿の実を家光に献上した。「見事だ、どこの産か」家光は機謙よくいった。「これは先年いただいた、柿の種が生長して実を結んだものです」天海は、うやうやしく答えた。家光はじめ居合わせた人々は大いに感服した。天海は常に先々を見すえており、決して焦らなかつた。

また、あるとき家光は天海に長寿の秘訣をたずねた。しばらく考えたあと、天海は、懐紙に「気はながく、つとめはかたく、色うすく、口食ほそうして、こころひろかれ」
〔長命は粗食正直湯陀羅尼おりおり御下風(放屁)あそばさるべし〕と書いた。

二首目の「御下風あそばさるべし」というのがいい。何ごともあせらずに、ゆったりするのがなよりの健康法というのである。寛永20年(1643)天海は入寂した。百八歳であった。百二十余歳ともいうが不明である。とにかく長寿の人であった。

老いとは、親を失い、配偶者を失い、若さを失い、歯を失い、というように、非常に多くものを失うことでもあります。よい老いを手に入れるためには、さまざまものを失いつつ、新しい状況の中で適応していくことが必要になります。うまく適応することが、できるかどうかは老いの状態を決めるようです。体が単に丈夫だというだけでなく明るく楽天的な性格、物事を前向きにとらえること、芯がしっかりしていて、柔軟にかんがえられる頭などが必要なのかもしれません。

同窓会の活動も、このような気持ちを育てられたらと願っております。

事業報告

A：平成4年度幹事会開催

日時 平成4年3月27日(金) PM6:00-8:00 出席者数 11名

議題 平成3年度収支決算・平成4年予算案

平成3年度事業報告・平成4年度事業案

支部長会議・理事会の報告

第19回総会の日時・場所の決定

B：第19回総会

日時 平成4年7月5日(日) PM11:00-3:00 場所 フローラ西船

参加会員 32名 本部・いわき・東京・埼玉・静岡・水戸勝田より来賓 7名

①：事業報告 幹事会・編集会議・他支部参加・本部理事会・支部長会議等

異業種懇談会(企業見学) 親睦会(家族も含む)

多賀工業会創立50周年記念に関する件

②：議案 平成3年度収支決算・平成4年予算案 審議可決

平成3年度事業報告・平成4年度事業案 了承と審議可決

③：記念講演 講演者 山本芳正氏(22機械) 演題 [酒と遊ぶ]

④：記念行事 [甘いか辛いかなメテミロ] (利き酒コンクール)

山本芳正氏(22機械)の懇切丁寧で、独創的な理論展開の講演を拝聴後行う。

全問正解者は、いわき支部名誉会長相川達雄氏のみだった。(出羽氏の投稿参照)

⑤：懇談会

C：第4回ゴルフ・コンペ

日時 平成4年9月25日(日) 場所 千葉スプリングCC

優勝者 渡部昭夫氏(41化工) 準優勝者 高萩隆司氏(38電機)

D：囲碁大会・梨もぎ大会の親睦会中止 参加希望者の方に深くお詫びいたします。

E：多賀工業会創立50周年記念式典並びに祝賀会

①：日時 平成4年9月6日(日) 場所 日立シビックセンターマープルホール

②：式典・記念講演 神谷不二氏(慶応大学教授)・祝賀会

③：千葉支部より9名出席 (千葉支部より2,000円補助)

F：第2回 工場見学 (日時・場所等の詳細は本号の編集後記に記載)

西安紀行

清宮 文雄 (23機城)

平成3年6月に中国の旅に出た。

成田空港より4時間15分で北京空港に着く。北京空港より1時間45分で西安空港についた。ホテルは日中合併企業であり、10万㎡の敷地をもつ唐華賓館である。中国の通貨は元であり、1元は日本円で27円であった。中国は10進法であり1元は10角である。現在の中国は昔と異なり、若い年齢層は、男が育児もすれば、料理もするようである。又子供は一人だけと政策として制限している。西安市の面積は日本の秋田県位の面積であり、現在陝西省の省都で人口は三百万人である。西安は唐の時代長安と言われた。阿部仲麻呂や空海など深く関わった日本人の数も多い。

紀元前11世紀頃より約二千年の間に秦・漢・隋・唐など11の王朝が都を置いたところである。

見学の始まりは、西安の東約25kmにある華清池である。海拔1200mあまりの驪山(リザン)北麓にある温泉地で、唐代に八代目の玄宗皇帝が大規模な離宮—華清宮を造り、冬の間の半年を楊貴妃とともに過ごした。楊貴妃の浴槽は10㎡位、玄宗皇帝のはその四、五倍位で現存している。楊貴妃の死後50年に作った白楽天の【長恨歌】にそのロマンスがうたわれているが、七言(シチゴン)百二十行の長編叙事詩で冒頭は漢皇(唐代のため時代をはばかって漢とした)色を重んじて傾国をおもう。御宇多年求むれど得ず。楊家に女ありて初めて成長す。養って深閨に在り人未だ識らず。と語っているが、ガイドの説明によると始め玄宗皇帝の息子の嫁であり、玄宗に見染められて仏門に入り、その後に妃となったとのことである。楊貴妃に溺れ政治をおろそかにし、安祿山の乱により蜀へ逃げる途中の馬嵬坡(バカイハ)で、護衛軍が動かなくなった。乱の原因は楊一家の為と言う。止むなく皇帝は楊貴妃を自害させる。乱が治まり長安へ戻る途中馬嵬坡で遺体は見つからず鬚などが残っていた。従って楊貴妃の墓に遺体はないそうである。

次の見学先は東へ30kmにある秦の始皇帝陵である。36年の歳月を要したといわれ墓塚は高さ40m東西345m南北350mの広さをもっている。墓塚の山腹・周辺は石榴の花ざかりで紅満点の景色であった。秦は始めて皇帝と称したが、没後三年にして楚の項羽の軍により墓は悉く破壊された。天下統一後わずか十余年にして秦は滅亡した始皇帝陵の東1,5kmのところ兵馬俑坑(ハイバヨウコウ)博物館がある。1974

年、農民の井戸掘の作業中に発見された。一号・二号・三号坑に分かれているが、見学できるのは、一号坑の歩兵軍団・三号坑の司令部である。陶俑は、等身大で八千体にのぼると推測される。また、始皇帝が国内視察に使用した青銅製の寝台車の2分の1大のものが展示されている。

翌日は、西北郊外の見学である。シルクロードの出発点である。

西安の北西80km・海拔1047mの北梁山の山にある唐の高宗と則天武后を合葬した乾陵(ケンリョウ)である。則天武后は、中国の唯一の女帝である。

南に延びる500mの参道には、外国使節・武人等百二十余の石像が並んでいる。乾陵の南東には、十七人の陪塚があるがそのうち永泰公主墓は、高さ20mの方台形。墓室には、等身大に描かれた優美な宮女の壁画が残っている。壁画は日本の高松塚のものに似ている。永泰公主は則天武后の孫娘であるが、武后の怒りにふれ17歳で自害させられ後に、許されて陪葬された。

渭水(イスイ)を渡り西安の北西28kmのところに感陽市博物館がある。明代に建てられた孔子廟を利用した博物館で、秦時代の文物が展示されているが、漢の兵馬俑は、高さも40cm-50cm質も秦の兵馬俑に比べると見劣りがする。西安は平成4年には、国際空港が完成し、外国より直行便が運行されるとのことである。西安観光後夜行寝台で洛陽へ向かった。中国の鉄道は広軌であり7時間の車中の後、洛陽市に到着した。

陶俑の美(其の1)



世界が平和でありますように

嶋田 清 (20 金属)

会報をお借りして私が参加しております、祈りによる世界平和運動についてのべさせていただきますと共に皆様の御参加をお誘いしたいとおもいます。

私は卒業が昭和20年の終戦の年であり、それも9月に繰り上げて卒業というより先生方の見通しが立たないもので追い出されるという感じで社会に放りだされ、同期生は卒業時就職した者、皆無という状態でした。

多賀在学中に父親を亡くしたのですが、その父親がやっておりました、小工場を再開させ今日まで多くの方々に助けられたり助けたりで何とかやってきたわけです。そして人生指導の面で祈りによる世界平和運動の提唱者である故五井昌久先生にお会い出来たことは私の人生最大の出来事でありました。神とは・人間とは・宗教とは・祈りとは等理論的且つ実践的に指導いただき今日安心立命の境地を目指しているわけであります。

皆様も街頭などで「世界人類が平和でありますように」というステッカーや塔を見かけられたことがあると思いますが、一宗一派にとらわれず、いかなる主義主張にも偏らない全人類の願を祈りを言として、今全世界に拡がりつつあります。

真の祈りとは神のみ心の中に個人の想いを昇華させることであり、自我欲望つまり、家内安全・商売繁盛といったことのみをお願いすることではなく又念力でもありません神のみ心とは、と問はれても、お答へ出来ませんが、人間の本心(生命)は神から分かれたもの、つまり神の子と言えらるものであり、神は人間の親と考へられます。親は子の不幸を喜ぶわけではないので「人類よ平安なれ」と思われていることは間違いないところです。ですからその神のみ心を受けて人間の祈り言としては「世界人類が平和でありますように」と祈るのが神のみ心に致達する近道であります。宗教や祈りと言いますと現代の唯物的な学校教育を受けられた方の中には即迷信と思われる向きもあると思いますが神と思へなければ自然と言ひ換えてもよいのですが、人間は神(自然)によって生かされて生きているのが実態であります。人間赤ん坊と生まれた時から、空気・水・食物・大地・太陽とあげれば際限のない程のいろいろなものの恩恵によって生かされておりますが、あまり当然すぎるので何の想いもなく生きているのが一般の現状であります。私達は改めてこれらのものに対し感謝の祈りを捧げております。この時期を人類社会にとって怪我が少しでも少なく乗り切って、輝かしい21世紀を迎える道を拓くものは、この祈りによる世界平和運動に懸かっていると思っております。むずかしいことはあり

ません、想いを一つに世界人類の平和をいのればよいのです。個人で祈るのは勿論ですが、集団で祈りますますと、一本の木では中々燃えないが、何本も集めればよく燃えるように、その力は倍加されます。

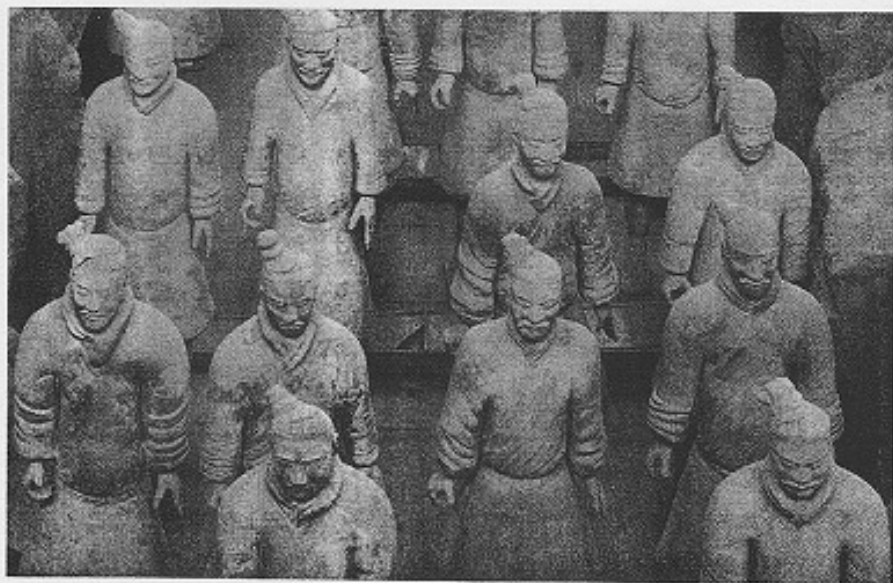
祈りとは、理論で分かるものでなく行ずることによって体得出来るものです。リンゴの糖度がいくら、酸度がどのと言っていないで噛ってみれば味が分かる様なものです。すこし馴れてきますと祈りの醍醐味とでも言いますかすっきりと良い気持ちになれます。又、会（白光眞宏会）の行事に試参加もできます。会に入っていないのが、目的ではなく、一人でも多くの方に祈りに参加していただきたいと言うのが、念願でありますのでどうぞ御参加ください。

未だ未だ言い足りないところばかりで、皆様の納得を得られには程遠いと思いますがどうか意のあるところを、お汲み取りください。

世界が平和でありますように

MAY PEACE PREVAIL ON EARTH

陶俑の美 (其の2)



名刺の数

高萩 隆司 (38電機)

うろろしているうちに五十路を越え、ふと立ち止まって、回りをきょろきょろと、見渡す余裕らしきものができました。しかし、山登りとおなじように、自分がいま立っている近くの状況というものはなかなか把握しがたく、ようやく遠く過ぎ去ったふもとの景色を美しく眺められるだけです。特に、多賀の里の情景は強烈な印象をいまだに残しており、覆えることを知りません。吼洋楽・酒・歌・ダベリ・とりわけ良かったのが、友人と恩師。なにげなく選んだこの登山道が、人間形成のなかで大きな影響を与えてくれたことは、まぎれもない事実です。多賀の里でおぼえた歌が、いまでもカラオケの持ち歌であります。もっともこの時代は、一度か二度きけば、自然とおぼえられたものでした。しかし、いまは何度練習しても持ち歌にできないという情けない状態です。

仕事の上でも同様でして、設計関係を30年来続けておりますが、柔らかい頭を維持することは、なかなか難しく、もっぱらこの問題は誰に聞けばよいとか、誰と話をすればよいかなどと、まやかしの技術屋になっているのではと反省しています。常識とか権威など、みんながおのずと認めている世界に埋没して生きることを「奴隷の幸福」というそうですが、多賀の里の時代のような柔らかい頭と自由でしなやかな心を持ち続けたいものだと思っています。まやかしの技術屋といましたが、技術屋としては自分が、何ができるか、ということ以上に、友人や相談にのってくれる知人が、如何に多いかが大事なことです。ドラフターやディスプレイなどと対面していることが多い技術屋にとっては、人と人の心を通わせるということは、やはり苦手で、努力を必要とするものだと思います。多賀工業会の大先輩、原田初代会長にあって教えられました。

『高萩君、交わした名刺の数は力だよ』

先日、千葉支部のゴルフコンペに参加させていただきました。さすが多賀の里を共通の故郷とする同士、初対面の人でも10年来の知己のようで、ゴルフを楽しむことができました。また、名刺の数を増やすことができました。

酒に度かれて（総会参加の記）

平成3年度本部総務 出羽 宏視（41機械）

“千葉県支部総会に大森さん（副理事長）と一緒に出席するよと返事を出しておいたから！” “???” “懇親会では、利き酒大会をやるらしいよ”。

寝耳に水の誘い（命令？）に当惑しながら“利き酒大会”になんとなくつられて、梅雨期にはめづらしく晴れた7月5日（日）。JR総武線・西船橋駅近くの“フローラ西船”へ。会場には、40名近い大先輩とおぼしき諸氏が、すでに着席。身を固くして末席に座る。会場に紅一点、三好洋子氏（旧職員 徳江 徳 元学長のお嬢さん）が出席。

税所氏（28金属）の可会で、山田支部長の挨拶、大森副理事長の来賓挨拶ののち、議事に入る。三幣正人幹事長の議案説明。独特のペランメー調に聞きほれている内に、6号議案まで無事終了。平成4年度事業計画の4号議案の囲碁大会・ゴルフコンペ・梨もぎ大会・工場見学・忘年会と続く支部催事に、千葉支部の活力を、かいまみる。一息入れる間もなく「酒を遊ぶ」と題して山本芳正氏（22機械）の講演が行われる。平成4年4月から酒の等級が廃止され、名称表示に変わったとの説明。配布された資料をみると、大吟醸酒・吟醸酒・本醸造酒・純米酒・純米吟醸酒・原酒・正酒・・・、加えて特別云々など、さらに日本酒度（甘・辛）・酸度・，好適米・好適水や製造工程などが記載されている。名称の多種多様さには、頭が混乱してくる。しかし、理路整然とした山本氏の講演により、精米歩合・純米・醸造アルコールの添加量の三者の比率で名称が区別されていることが次第に整理されてくる。原酒と生酒は、呼び方が違うだけで同じと思っていたが、その違いも分かる。1時間に及ぶ講演の最後に“これからは酒瓶に貼ってあるラベルをよくみて酒を嗜んでください”と、いう提言で締めくくられた。複雑難解な日本酒の名称表示を簡潔明瞭に講演され講演終了後には“ニワカ日本酒通”に、なったような気分させられたのも、山本氏の名講義の賜物であり、講演の流麗さに感銘する。

講演終了後の記念撮影もそこそこに“特別企画の利き酒大会「甘いのか辛いのかナメテミロ」の会場へ！

会場では、5本の銘酒（吟醸酒以上）が用意され、その日本酒度〔甘辛〕を判定する趣向である。最初に5本の内、中程度の基準酒を全員で試飲する。残りの4本を各自

判定すのである。美しく艶やかな（ホントです）コンパニオンから試飲酒が盃に注がれ順次配られる。第一番目、意外に甘い。隣の関氏（水戸勝田支部・幹事長）と検討して甘口で合意。突然脇から“ここでカンニングしておるぞ！”との三幣さんの囁声が響く。利き酒が、進むにつれて自信のあった1番目も4番目ごろには、NHKの「ホントにホント」よろしく「こんがらかってグウーこんがらかってグウー」となり適当に番号を付けて出す。結果の集計では正解者が、いわき支部の相川名誉会長たったの1名。2つ正解が7～8名程度で他は落第。相川先輩の年（酒）の功に全員脱帽する。ちなみに第1番目は激辛だったそうで、私と関氏は相談の甲斐もなく全く逆の判定で零点。カンニングも相手が悪けりゃ（失礼）お互いに惨めな結果になることを、肝に銘じつつ山本氏による講評を拜聴する。

引き続いての懇談会は、利き酒の余韻の中に和気あいあいと進行し、吼洋寮歌【黒潮ほえる東海の・・・】を全員で斉唱し散会。

夏の猛暑も過ぎ秋たけなわの今、当時を振り返りつつ敢えて参加の機会をいただきました千葉支部各位に対し紙面をかりて厚く御礼もうしあげます。有難うございました。

雑 感

黒川 道生（41工化）

昭和41年工業化学科を卒業した者です。最近多賀工業会千葉県支部に入会させて頂き、嬉しく思っています。まだまだ会員の方との交流が殆どない状態ですので、会の事は知らない事ばかりです。私は東京で生まれ東京の生活が長く、日立での生活は大学の3年間だけですが、卒業後は関東で生活しその後大阪で8年間生活しました。10年前大阪より転居してから千葉に住む様になりました。東京周辺は土地が高く住むところではないおもいます。東京は勿論、埼玉・神奈川県で我々サラリーマンには東京通勤範囲に住居を構える場所がありませんでした。ところが千葉県には東京から30-40km圏で未開地にニュータウンをつくる計画があり意外に近いところに我々の様なサラリーマンでも入手可能な場所があるのだなとと思いました。現在不便ですが将来便利になることが予想された千葉ニュータウン中央に一建屋を設けました。最初は不便な思いをしましたが、人口が急増し都心迄の直通電車が開通し最近は随分便利になりました。反面自然が少なくなり、すっかり景観が変わってしまいました。それでも東京の混雑の中で仕事をしている者には休眼中だけでも空気の清い場所で過ごす、肉体的にも精神的にも、

元気づけられます。千葉に住むようになってから千葉のことは未だ未だ知り得ませんが田舎には田舎の歴史があるようで、その歴史を詳細に調べと面白いだろうと思っています。(☆)

大阪では8年間すみましたが、関西は関東人に対し始めはの頃は、近づき難い傾向がありますが一旦親しくなると戸や敷居がないと思う程隣人と密になります。関東人にとっては、鬱陶しいと思う事があります。反面、関東では表面的にはうまく近所つきあいし、ひどい場合は挨拶だけで隣人でさえ知らないままで生活する事が可能で関西人には関東の生活は冷たいと思う事があります。どの土地でも「住めば都」といわれる様に長く住めば愛着が生まれますが、生活が違うところが面白いと思います。

私も59歳を過ぎ、まだまだ若いと思いながら、そろそろ第二の人生設計をしなければと思うこの頃です。

☆ ご承知とは思いますが。

北総ニュータウンは木下(キオロシ)街道と竜ヶ崎街道に挟まれて、東は成田方面につながり、北は藤ヶ谷・船橋・習志野・総武、南は鎌ヶ谷・中山・八千代CCに囲まれている。周辺の歴史は豊富で、歩いて史跡や遺物の見学ができます。時代区分を明確にして取り組むと面白いとおもいます。地名も木下・神々廻・十余一、等いわく因縁がありそうです。船橋CCの中には、清水がコンコンと湧き出ているところがあります。

木下(キオロシ)は地質学上、第4紀洪積世の化石が露出していて研究者が調査に来るところです。律令時代の末期の平将門に關係する遺跡・牧等。千葉氏関連等。

江戸時代の【生街道】(ナマカイドウ)・【牧-野馬-】等。

明治維新初期の開墾の歴史等。その他沢山見受けられます。(編集者記)

50周年記念祝賀会に出席して 金坂 潤(47電工)

日立には、行ってみたい場所が二ヶ所あった。一つは入学試験を受けた時に宿泊した旅館だ。大学とは逆方向の実にローカルな景色の中をバスに15分程揺られて行くと、海に見える場所にあった。その鄙びた旅館は妙に人里離れた寂しい海辺にあって、そこから見える小さな島に綺麗な鳥が飛び回っていた。受験時の心細さがそう感じたのかとにかく不思議に印象に残っている場所なのだ。もう一つは色々世話になった下宿だ。

これを機にそう言う場所を巡ってみたい。また余り期待はしてないが、何人かの同級生に再会できるかも知れないと思い参加することにした。そして付き合いの少ない小生はこの下宿の仲間にも会ってみたい思いもあり、K君やT君等何人かに連絡してみたが、仕事が多忙とか遠方であったりで参加は無理であった。ただ、20年ぶりで話した電話の向こうの何人かは直に分かり、何人かは時間の隔たり以上に、遠くなっていたりで、嬉しくもあり寂しくもあった。当日は10時30分に会場に着くように家をでるつもりが、遅れてしまい上野発の特急は次の列車になった。20年程前とは常磐線沿線の景観も大分様変わりして、田園は休耕して草地となったり住宅が押し寄せていた。予定より1時間以上遅れて日立に着いた。駅前はガラリと一変しており公園広場ができ周囲に斬新なデザインの高層の建物が立ち並んでいた。同窓会の会場は何と通り過ぎしてしまった。公園の下にあった。

祝賀会では年配の方が多く少々気遣いがした。ただ今回は支部でお会いした方も何人か参加されており孤独感はなかった。しかし皆さん何方も元気だ。驚く程にまだ現役。第二第三の職場で働いている方もいる。近くに居らした年配の方も、現役で活躍され、エネルギーな生活に感服した。その方も同級の方の参加が無いと、少々寂しげであった。小生も参加者名簿をみて予感どうりで残念な気がした。然し同年輩の人には会えた。学科は別で、学生時代には馴染みではなかったにしろ顔は臍げに覚えており何故か懐かしく嬉しかった。またこの会には小生のような異邦人にも楽しめるように、幹事さんが配慮され、伝統芸能のグループが次々と舞台上で演芸する等食べてよし・見てよし・話してよし・という趣向であった。結局途中で抜けて下宿のおばだんに挨拶に行く予定が、最後迄居ることになった。

下宿は、大学から歩いて数分の近くにあり、ここも昔の畑地は住宅で奪っていた。川の近くの坂の下に下宿はあったのだが、そこには大きな新築の家が建っていた。しかし表札の名前は普通だった。おばさんは直に分かり、昔と変わらない元気でまでなしてくれた。既に下宿は止めたという話だ。今の学生はアパートを借りるそうで、現にその下宿の前にはアパートが建っていた。

いつまでも昔があるわけがない。同窓会に求めるのは「昔」だけじゃない。楽ししい関係など。同じ場所で学んだという繋がりのもつ気安さをベースにして、と最近痛感するようになった。

平成4年度年会費納入者名(略敬称)○印該年度納入者数

- 16 ⑤ 前田晴郎 田中康雄 原田正夫 長尾和愛 渡辺義治
- 17 ⑦ 檜山良平 市東志郎 塚原 重 今村 勝 林 詮 地引一夫(羽鳥忠雄)
- 18 ④ 星野正良 加藤清明(金田利徳) 石井弥二郎
- 19 ⑪ (大木一郎)(菅根晃平) 小久保勇(木植和夫) 大山 巖 木村一夫 柴 敏夫
小林秀夫 荻谷 達 山田泰雄 鈴木幸男
- 20 ⑥ 鈴木友生 白鳥忠雄 横田正一 斎藤勝夫 島田 清 小山英一
- 22 ⑫ 額賀利厚 田村耕治 佐藤 豊(伊藤勝術) 福地敏郎 御園生計夫
山本芳正 高山和夫 明石和夫 並木 靖 川崎幹男 安達惠三郎
- 23 ⑩ 岡村哲男 田中正章 篠崎光男 矢口三郎 桜井 宏 大久保勝躬
大川栄一 松平勢和 一木 忠 清宮文雄 川上昭二 海野政之助
保立辰巳 関根 要(金沢 昇) 杉野有一郎
- 24 ④ 柳原信行 草刈 董 三幣正人 栗谷川文治
- 25 ⑦ 大塚恒男 小河 孝 宮島正弘 塚越要夫 小林喬夫 森 勇一 高松恒夫
- 26 ③ 岡安孝捷(飛田良雄) 熊谷龍夫
- 28 ⑤ 飯田 弘 橋本武夫 石島 均 税所 祐 根本茂雄
- 29 ④ 柳 陽 大津勝男 大津正夫 北村 健
- 30 ⑧ 目黒 久 中板昭男 綿引敏雅 木戸田松吉
石川安男 中野義正 手塚 遊 住谷永夫
- 31 ③ 田中 宏 中川 洋(生井春夫)
- 32 ⑦ 柳原康夫 永山 哲 段家文彦 大和田武義
檜山直孝 高橋利尚 小室秋生
- 33 ② 薄井徳彦 高橋清忠
- 34 ⑤ 根本行康 皆川孝之 黒川一之 柴山祐芳 阿久津嗣夫
- 35 ④ 岡村光真 渡部林二 高橋 清(相沢浩司)
- 36 ① 久野 清
- 37 ⑦ 小池健一 富田宣吉 佐藤哲男 遠藤芳勝 佐藤栄一 陣野友久 古橋弘治
- 38 ④ 佐藤英雄 孝見忠彦 綿引貞男 高萩隆司
- 39 ① 市瀬忠彦
- 40 ① 小林幸篤
- 41 ④ 渡部昭夫 黒川道生 柴 勇 木村 保
- 42 ③ 浜野統一 新美千冬 檜座世喜男

- 43 ③ 杉浦武夫 (御園 誠) 橋本弘道 44 ③ 宮田敏夫 日置和夫 梅田毅明
 46 ④ 笹倉隆親 加藤清一 深山泰一 兼巻良勝
 47 ② 金坂 潤 小出喜右衛門 48 ① 西川洋治
 52 ② 倉川久男 岩瀬幸男 53 ② 八木純明 菅根 勉 55 ① 岡安英一
 59 ① 狩野 宏 60 ① 神田 建 61 ② 吉田知秀 小堀繁治
 62 ② 早野 太 中村昌己 63 ④ 宮台進二 望月輝久 本間克則 都築広昌
 H1 ⑤ 桑原宏明 (伊藤隆美) 原 啓介 (石橋 忠) 宇佐美直之
 H2 ⑥ (成島和男) 高橋栄次 (佐藤宏治) 丸山尚正 飯島史教 石川 明
 H3 ③ 寺西浩之 笠原康嗣 有吉信行
 H4 ⑧ 柏木 保 (阿部哲也) 坪井信行 賀川宣英 (古川 昇) (北川明広) 荒城典雄
 御子柴昌久
 旧職員 ① 三好洋子 4年10月30日現在 185名

平成4年度広告費納入社名 (略敬称)

- 1 国土開発工業株式会社 [16 原勳 羽鳥 忠雄]
 2 地引税務会計事務所 [16 金属 地引 一夫]
 3 小久保製作所 [19 機械 小久保 勇]
 4 仙電 工業株式会社 [19 機械 山田 泰雄]
 5 太陽鉄工業株式会社 [20 機械 鈴木 友生]
 6 嶋田 製作所 [20 金属 嶋田 清]
 7 福井電機株式会社 [22 機械 額賀 利厚]
 8 大川 音楽事務所 [23 機械 大川 栄一]
 9 インテリアイチキ [23 金属 一木 忠]
 10 株式会社 高 屋 [24 機械 三幣 正人]
 11 日本空調工業株式会社 [26 電気 飛田 良雄]
 12 岡安産業株式会社 [26 金属 岡安 孝捷]
 13 新日軽 株式会社 [28 金属 税所 裕]

4年10月30日現在 13社

編集後記

※ 会報は第8号。1年2回の発行だから、満4年間継続したことになる。ただ、最初の1年間は、会報発行のための準備期間だったので、現執行部が誕生して、早いもので5年目に入ったことになる。ところで、最近、編集会議では、色々の意見や反省を繰り返している。特に、会報が【マネリ化】しているのではないか。一人よがりになってはいないか。寛容と慣れによる、甘えはないかということが多い。そんなことがあってはいけないから資料を検討して改良を模索しているが、同じ顔ぶれでは新鮮味は出ない。新しい発想で、編集方針・体裁・印刷方法等について見直したい。会員諸氏のザック・バランでホンネの意見を送って戴きたい。是非願います。

※ 千葉県支部総会時の【特別行事】は他支部間で半端ぢゃない程評判になっている。会員から講師を委嘱し講演後【特別行事】を全員のパフォーマンスで行う。第一回は、俳句の手ほどきをうけて全員が【俳句を詠み】全員で互選した。第二回は、酒に関する知識を学び全員が【甘いか辛いナメテミタ】酒の結果の正否について競った。次回は、【20回の記念総会】場所は、幕張メッセまたは千葉ベリエ。日時は未定。記念講演は沼田知事をお願いする予定だが未だ確定ではない。この点を考慮し【特別行事企画】を会員の皆様から募集したい。企画から全員参加だ。賞金または賞品をタント用意する。締め切り日は平成5年1月末。これら特別行事の目的は、大勢の会員の方々が総会に、参加していただくことだ。従って【特別行事】が喜ばれて総会の参加者が少なくても本末転倒も甚だしい。次回は、平年の倍増を期待している。勧誘も皆で考えよう。

総会の参加者全員に50周年記念のテレホン・カードを贈呈すべく用意した。

※ 異業種懇談会の一環の工場見学を実施する。場所：日本軽金属船橋工場
平成4年12月11日（金） 2時 JR津田沼駅改札口集合 会社の御好意でバスを準備された。時間は厳守されたい。見学会第4回目の忘年会を行う予定。会費約1万円
① 見学会と忘年会 ② 見学会のみ ③ 忘年会のみ 7号に同封の返信用ハガキで申し込みを済ませた人以外で参加希望者は11月30日必着。山田支部長宛ご連絡を。郵便または電話で申し込み下さい。0474-85-0078（山田支部長宅）

※ 今回、沢山の投稿をいただき感激している。埋め草の千葉県に関する、読み物は不必要となった。次回も転載されないで済むほどの原稿をお待ちしている。

文責 三幣 正人